

研究課題名	肝疾患患者における門脈圧亢進性小腸症についての研究
研究責任者名	広島大学病院内視鏡診療科 教授 田中 信治
研究期間	2018年10月17日～2020年3月31日
対象者	2009年1月1日から2019年12月31日までに本院内視鏡診療科において小腸カプセル内視鏡検査を施行された肝疾患既往のある患者さん
意義・目的	<p>肝臓に疾患を持つ患者さんには消化管病変として、食道静脈瘤・胃静脈瘤や痔疾患などの血管性病変は古くから知られており、上部・下部消化管内視鏡の進歩に伴い、門脈圧亢進症性胃症、門脈圧亢進症性大腸症もその1つとして明らかになっています。</p> <p>近年、カプセル内視鏡やバルーン内視鏡などにより全小腸の観察が可能となり、小腸にも病変の存在が報告され、門脈圧亢進症性小腸症として注目されています。</p> <p>門脈圧亢進症性小腸症は毛細血管の拡張や絨毛の浮腫、小腸の静脈瘤といった多彩な形態を呈し、時に小腸出血や低アルブミン血症の原因となる可能性が示唆されていますが、その発生のメカニズムおよび臨床的意義については未だわかっていません。</p> <p>そこで当院において小腸カプセル内視鏡を行なった肝疾患の患者さんを対象に、臨床経過や放射線画像、血液、内視鏡所見を比較し、門脈圧亢進性小腸症の発生機序および臨床的な意味を検証することを目的としています。</p>
方法	<p>この研究に使用する情報として、カルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、あなたの個人情報には削除し、匿名化して、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、病名、合併症、生活歴（喫煙、飲酒等） 2) 血液検査、便潜血検査結果 3) 消化管内視鏡検査画像および所見 4) 小腸カプセル内視鏡検査画像および所見 5) 放射線検査画像および所見 6) 臨床経過
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学病院内視鏡診療科 教授 田中 信治
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5537

広島大学病院内視鏡診療科 教授 田中 信治

広島大学病院消化器代謝内科 医員 大谷 一郎